

琉球大学学術リポジトリ

＜写真ニュース＞沖縄における肉牛生産の振興

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安谷屋, 隆司, Adaniya, Takashi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21301

沖縄における

肉牛生産の振興

— 写真ニュース —

今日、沖縄において肉牛生産が有望視され、沖縄の基幹産業へと動き始めている。

肉牛生産の振興がクローズアップされたのは4～5年前からで、その背景となった生産条件の有利性および生産拡大の要因となるものに次の4点があげられるのではなからうか。即ち：

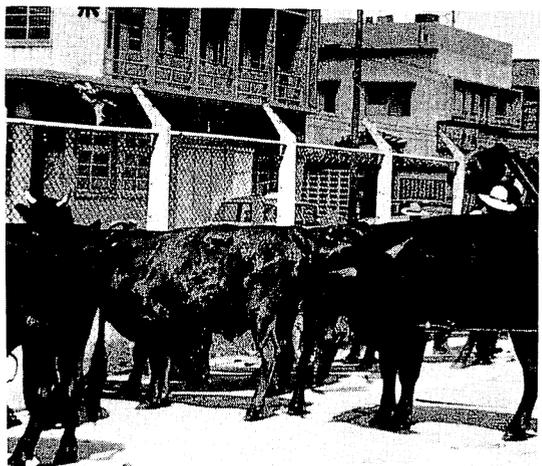
- ① 周年、気候が温暖で青草類（粗飼料）がいつでも収穫できる。
- ② 開発可能な山林、原野が存在する。
- ③ 本土市場における肉不足、とくに牛肉の不足による好値
- ④ 甘蔗栽培のゆきづまり、パインの自由化接近など二大作物の先ゆき不安からくる次の作目の開発の必要性

などが主な要因と思われる。しかし、これらの中ですべて最も有利な条件とされている①②③について述べてみよう。

元来、肉牛の世界的に主要な産地は一般に広大な土地に放飼するという土地の粗放利用によって成りたっているものであり、そうすることによって高い労働生産性の維持を計っているといえる。さて、我々沖縄をふり返ってみると、第一に土地が狭少で細分化し、集約化され、その上、土地の使用権が複雑で大型粗放経営は不可能に近い状態にある。それ故に沖縄の肉牛生産は土地の高度利用に立脚し、さらに労働生産性の高い肉牛生産でなくてはならない。特に肉牛飼育の場合、飼育期間の長いことから「購入飼料に依存した（多頭飼育を



(1) 琉球畜産試験場八重山支場の種畜繁殖育成牧場



(2) 宮古から船便で泊港に運ばれてきた素牛。この牛は沖縄本島の肥育農家に売り渡される。

含む) 経営は、その収益性において肉豚、ブロイラーに及ばず」とされており自給飼料の生産が重要な決めてであることを示している。

また、③の市場価格の好値について検討してみると、本土の場合、牛肉不足は国内の需要増加に対する供給不足がその主因で、それは国外からの輸入肉の制限、および関税保護などによって国内価格の好値は維持されているともいえるからである。それ故、将来低開発国との貿易政策の結果として畜産物の輸入が伸び国内産肉、および沖縄産肉との競合が生じることを十分考慮する必要がある。

そのような事態に対する対策はといえば、まず労働生産性の向上による規模の拡大、および生産コストの低減による競争力の強化、更に飼育技術の向上により良質な肉の生産を行い、価格の安定化および需要の拡大を計ることが重要であるといえよう。

コスト低減による安い肉を生産するためには、まず、安い素牛の生産がなされなければならない。それには放牧が最も良いとされ、広大な土地のある地域で肉牛生産が行われているのもそのためである。

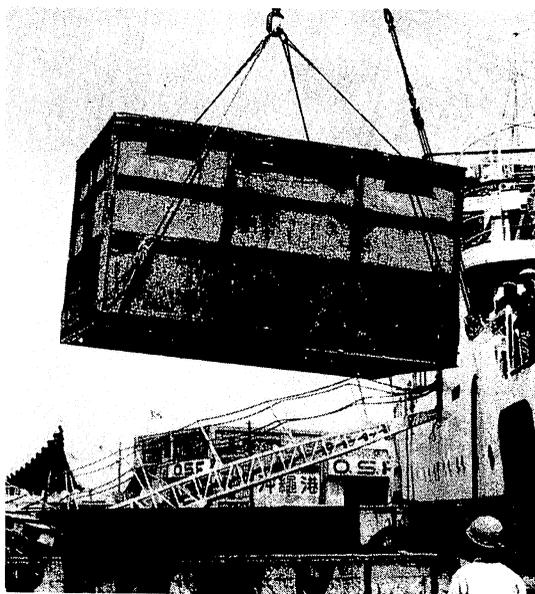
本土では繁殖センターなどが国または県により経営化されている。沖縄でも安価に素牛生産を行うためには未開発原野、山林の草地造成を行い、放牧による子牛生産の集団化などを考える必要がある。子牛の生産コストを低減し、素牛価格の安定化を計ることにより、農家における肉牛肥育の生産を安定させることが将来に向けて重要である。さらに肥育を行う農家にとっては牧草の栽培、労働生産性の向上を計ることにより規模の拡大を計ることが重要な課題となるであろう。

さて、このように生産の改良点について述べたが、さらに肉牛生産に附随する重要な課題は流通機構の問題である。今年4月から本土と沖縄間の肉牛の検疫が簡素化されたことになっているが、さらに一歩進めて沖縄牛に対する検疫の廃止が必要である。

今後生産量の増大にともない、輸送手段の合理化、迅速化、貯蔵施設の整備拡充などによる流通のコントロールなども重要な問題となるであろう。



(3) 輸出のための検疫で採血される牛(琉球動物検疫所にて)



(4) この写真および表紙写真は本土向けに船積みされる肉牛のコンテナ。このオリの中に3~5頭の牛を入れて、トラック、船、トラックとオリのまゝ仕向地まで輸送される。

このように生産者から消費者への流通過程の整備は沖縄の肉牛生産発展にとって重要な課題の一つである。

結論として、要は肉牛生産がいかに安定した持続的な収益性を保ち、生産者の経済生活を安定させるかということである。(安谷屋隆司)